

ふみびと

第246号
発行所
文通村事務局
編集 広報部
千葉県成田市

穏やかな日常の いとおしさ

何気ない時間こそ

「人生の最後に食べた
いおやつはなんですか」

作家の小川糸さんの小説
「ライオンのおやつ」の
帯に書かれたそのフレー
ズに誘われるように本を
手に取りました。

余命宣告をされた主人
公が最後の時を過ごすホ
スピスで毎週日曜日にあ
る、入居者がおやつをリ
クエストできる「おやつ
の時間」。

各々が選んだおやつ
の思い出を話しながら、一

緒にそのおやつを味わう
というもの。

昔よく人生の最後に何
を食べたいかと友達と話
したことがあって「寿司
かな」「ステーキかな」
とそれぞれ「一番好きな
食べもの」を選んでいま
したが、大人になってみ
ると「最後に食べたいも
の」となると思いが詰
まったありふれたものを
選ぶような気がします。

皆さんならどんな「お
やつ」を選ぶでしょうか。
私もお出しのある「おや
つ」はたくさんあるので
すが、その中でもパッと
思いついたのは子ども
頃に母と妹と一緒に作っ
て食べたドーナツ。
ホットケーキミックス
で作った、特別なことも
何もないありふれたもの
ですが、今でもはつきり
とその味を、風景を思い
出すことができる特別な
おやつ。誕生日でもなく、
記念日でもない、何気な
い日常の中で、特別な思



寒さの中に春の気配がまじる頃。新しい季節を感じると、新しいことをはじめたくなる。特に春はなおさらだ。いつもは億劫に感じてしまう最初の一步も、柔らかな風や草木の芽吹きが後押ししてくれる。少しでも気がなっているものがあれば、ぜひ手を伸ばしてみたい。たとえわずか

な時間でも、新しく取り入れた習慣はさざ波のように生活にさまざまな影響を与えてくれる。たとえ

後押し

昨日までできなかったことができる自分がついたとき。大人になっても人は成長するものな

のだと感動する。たとえば、新しい知識ひとつを得ただけでも、これまで見てきた風景ががらりと変わったりする。新しい経験は、また別の新しい何かを連れてきて、生活をみずみずしいものに変えてくれる。あなたも、季節の誘いに応じて、新しいことをはじめてみてはどうだろうか。

風にゆられて誰かに届け！ 風船便

いつでも誰でも参加できますが、風船便の受取は新規の方へ優先されます。誰に届くかは風次第...。送り方は簡単。下の風船便切手を切り取って手紙に貼り宛名に「風船便を受け取った方へ」と書いて、差出人名を書くだけです。あ返信筒にのりをつけて郵便局に投函してください。事務局に到着することを確認の上、余裕を持ってポストに投函してください。



次回発送日

次回の発送日は3月の

3月16日(月)とな

ります。送りたいお手紙がある場合には、

3月14日(土)まで

に事務局に到着することを確認の上、余裕を持ってポストに投函してください。

言葉の冊子

以前に募集した「言葉の冊子」みんなの目標」が出来上がっております。たくさんの方に投稿いただき、ありがとうございます。ホームページ上からご覧いただけますので、文通のきっかけにして頂けると嬉しいです。